

千葉県看護協会

「令和 7 年度 看護職定着確保動向調査（求職者）」結果概要

離職理由は「出産育児のため」22.7%、「看護内容への不満」18.2%、「定年退職」
「家事と両立しない」「健康上の理由」「自分の適性能力への不安」13.6%

調査の概要

調査目的	離職中の看護職の就業意向や希望する勤務条件等を把握し、今後の看護職の定着確保対策の基礎資料を得る
調査対象	千葉県ナースセンターに登録の「就職活動をしている」未就業看護職
調査時期	令和 7 年 5 月 9 日 ～ 令和 7 年 5 月 29 日
調査方法	調査依頼をメールと郵便ハガキにて案内し、千葉県看護協会ホームページのアンケート機能を活用した Web 調査
回収状況	配布数：153 名 回答数：22 名 回答率：14.4%

調査結果のポイント

1. 回収状況と回答者の属性

- 今年度は 153 名にメールと郵便ハガキで案内し、回答数は 22 名で、回答率は 14.4%であった。前年度は、調査票を 185 名に郵送し、回収数は 28 名で、回収率は 15.1%であった。比較し、0.7 ポイント減少した。
- 年齢は、「30 代」が 27.3%と最も多く、次いで同率で「40 代」「50 代」「60 代」22.7%の順であった。
- 居住地区は、「東葛地区」が 31.8%で最も多く、次いで同率で「船橋地区」「松戸地区」18.2%、「千葉地区」13.6%の順であった。
- ブランク期間は、「0～3 年」72.7%が最も多く、「6～10 年」13.6%「4～5 年」9.1%の順であった。

2. 離職時の職種、雇用形態、勤務形態

- 離職時の職種は、「看護師」90.9%が最も多く、次いで同率で「保健師」「准看護師」4.5%の順であった。
- 離職時の雇用形態は、「正規職員」59.1%が最も多く、「非常勤職員」31.8%「派遣」9.1%の順であった。
- 離職時の勤務形態は、「二交代制」36.4%が最も多く、「日勤のみ」31.8%「短時間勤務」27.3%の順であった。

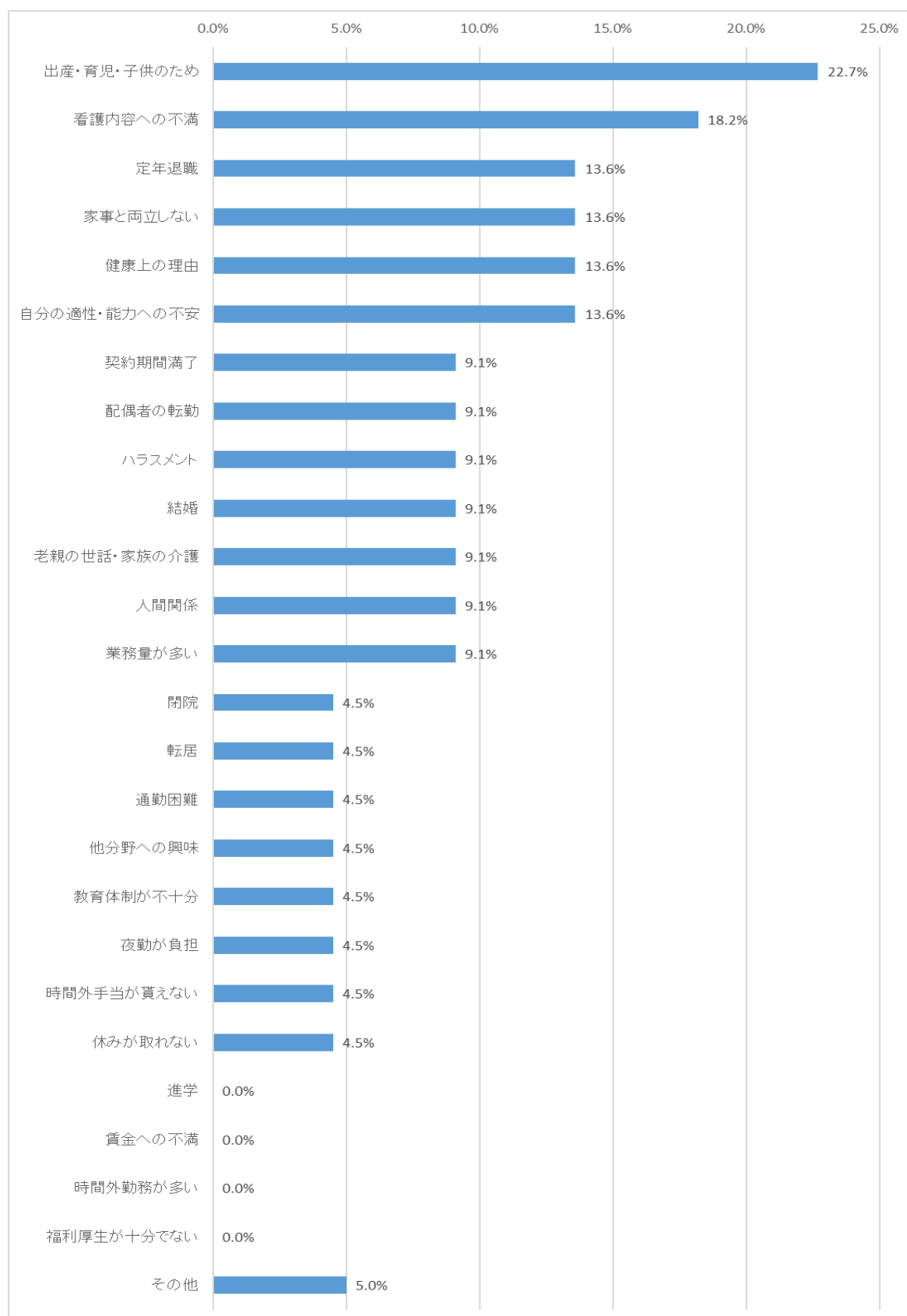
3. 看護業務の通算勤務年数、離職直前の施設での勤務年数

- 看護業務の通算勤務年数は、「7～9 年」31.8%が最も多く、次いで「20 年以上」27.3%、同率で「10～14 年」「15～19 年」18.2%の順であった。
- 離職直前の施設での勤務年数は、「1～3 年」45.5%が最も多く、「7～9 年」22.7%、「20 年以上」13.6%の順であった。

4. 離職理由

○離職理由は「出産育児子供のため」22.7%が最も多く、次いで「看護内容への不満」18.2%、同率で「定年退職」「家事と両立しない」「健康上の理由」「自分の適性能力への不安」13.6%の順であった。

図1 離職理由



5. 人間関係が難しかった相手

○離職理由で「人間関係」を選択した2人に人間関係が難しかった相手を尋ねると、複数回答で、「先輩」「同僚」「看護管理者」50.0%であった。

6. 「看護内容への不満」の具体的理由

○離職理由を「看護内容への不満」と回答した4名の具体的理由は、「看護業務以外の仕事が多い」「患者とのコミュニケーションの時間がとれない」、その他で「医務室トップが看護していない」、「仕事内容がメンタル面できつくなった」がそれぞれ1件ずつだった。

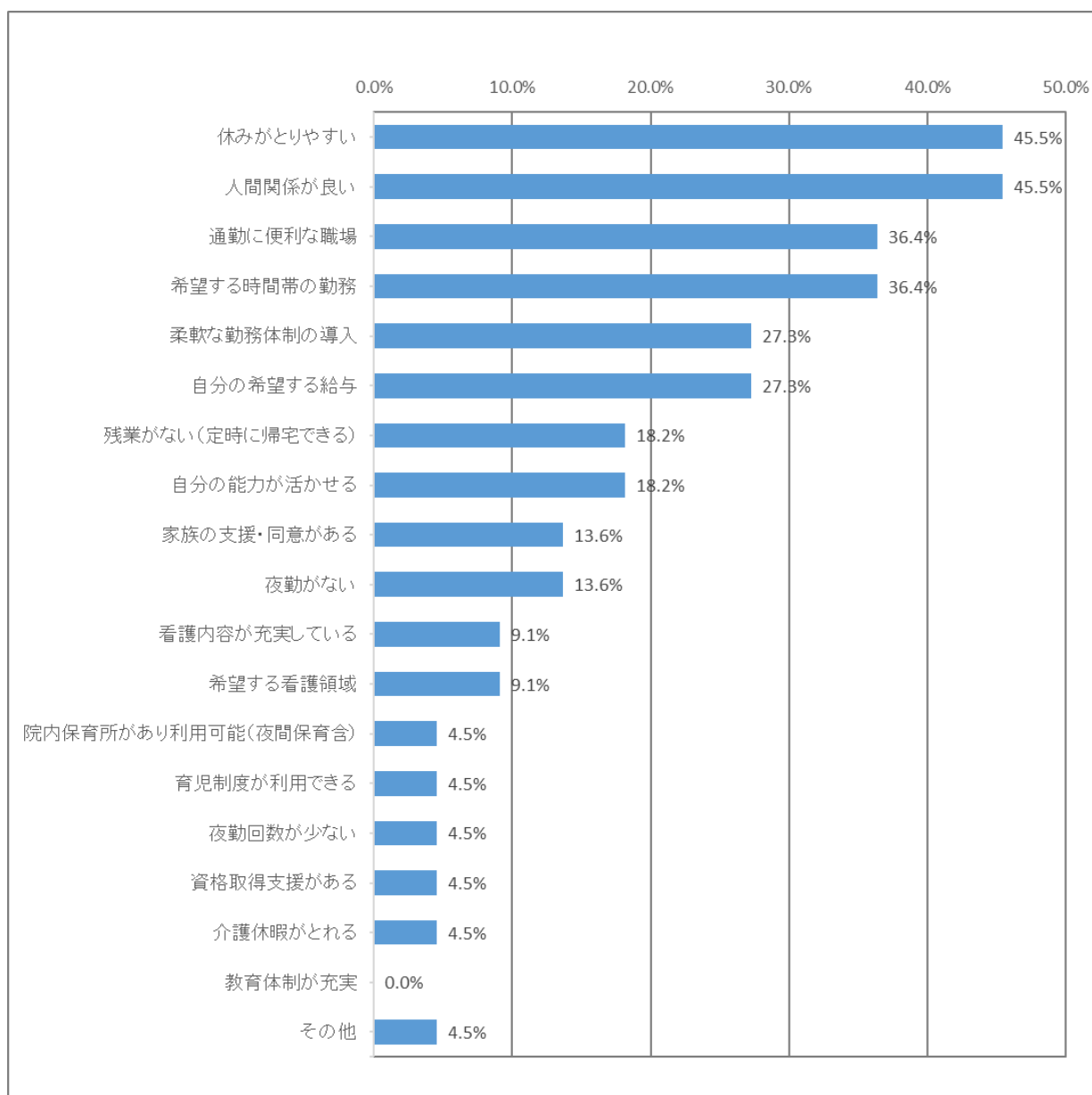
7. 「賃金への不満」の具体的金額

○「賃金への不満」への回答はなかった。

8. 就業条件

○就業条件は、同率で「休みがとりやすい」「人間関係が良い」が最も多く45.5%、次いで同率で「通勤に便利な職場」「希望する時間帯の勤務」36.4%であった。

図2 希望の就業条件



9. 再就業の条件について

- 就職する際の希望の雇用形態は、「非常勤職員」72.7%が最も多く、「正職員」18.2%、「派遣」9.1%の順であった。
- 就職する際の希望施設種別は、「診療所・クリニック」63.6%が最も多く、「病院（外来）」40.9%、同率で「学校・大学等教育機関」「企業」「保健所等公的機関」「健診施設」36.4%の順であった。